

## 令和3年6月秩父市議会定例会 市長所信表明（施政方針）

本日ここに、市議会・6月定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様におかれましては、大変お忙しい中にもかかわらず、ご健勝にて、ご参集を賜り、心より感謝いたします。

私が市長に就任しまして初めての本会議でございますので、私の市政に対する基本姿勢と所信を申し述べさせていただきたいと存じます。

私は、これまで、秩父市議会議員として平成3年から2期8年、また、埼玉県議会議員として平成11年から4期14年、合わせて、20年以上の政治活動の中で微力ではございますが、秩父市の発展に尽くしてきたと思っております。

このたび、秩父市長として皆様の前に立たせていただくことになりましたが、改めて私に課せられました責務の重大さを深く認識するとともに、市民の皆様への期待に応えるべく、今後の市政運営に全身全霊を捧げ、この職責を全うしていく所存でございます。

また、私は市長就任にあたり、登庁初日に職員に対する訓示を行いました。その中で、職員の仕事に対する心構えとして、「市民目線に立ち、市民のために何ができるか、或いは、何をすべきか」ということを常に念頭に置き、職務を遂行してもらいたいとお話をいたしました。

私としましては、職員のさらなる意識改革を進め、一步進んだ「市民視

点での市政運営」により、信頼される市政、開かれた市政を実現できるよう、努力をしてみたいと思いますので、議員の皆様におかれましては、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願いいたします。

さて、次に、現在の秩父市が置かれている現状について、私の考えを述べさせていただきますが、秩父市の人口は、1960年代から減少が始まり、少子化の進展や若者の流出などにより、今後さらなる人口の減少が見込まれております。

また、人口の減少に加え、年々、高齢化率も上昇しており、現在、秩父市民の3人に1人が65歳以上という状況でございます。

さらに、一昨年に発生した新型コロナウイルス感染拡大による影響は、様々な面において、市民生活に多大な影響を及ぼしており、市では、ワクチンの接種事業を適切に進めるとともに、必要な生活支援等についても検討していく必要があると考えております。

一方で、市の財政状況に目を向けてみると、市税の大幅な減少が予想される中、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとするコロナ禍における様々な対応に加え、少子高齢化対策や公共施設の老朽化問題など、行政課題は山積しており、今後ますます厳しい予算編成を強いられることを覚悟しなければなりません。

私は、秩父市のこのような現状に対応するためには、10年先、20年先を

見据え、次の世代に負の遺産を残さないためにも、行政経営を変革していくことが必須であると考えております。

まずは、現状の把握、分析を進める中で、適切に事業の取捨選択を行い、徹底した無駄の排除に努めてまいります。

そして、行財政改革を実行し、同時に、可能な限り市民の皆様にはわかりやすく公正透明な市政を実現し、秩父市の未来に対する責任を果たしてまいりますと存じます。

では、より具体的な内容として、私が掲げている公約について、お話をさせていただきます。

まず、1つ目は、財政の健全化でございます。

秩父市においては、令和2年度をもって合併による特例措置が終了となっており、また、市税の減収も続いていることから、今後の予算編成においては、極めて厳しい状況が予想されております。

一方で、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中であって、安全で安心して暮らせる社会を実現するためには、経済の活性化・雇用の創出、道路やインフラの整備など、幅広い視点で施策を進めなければなりません。

当市にとって、財政の健全化は、最も重要な課題であると私は考えております。何事にもスピード感を持って対応しながら、これまでの仕組みを大胆に変える姿勢で臨み、財政の健全化を重点的に推し進めてまいります。

次に2つ目は、地域医療の充実でございます。

秩父市立病院については、地域の中核病院として、また公立病院として、高度医療、救急医療、不採算医療など地域に必要な医療の提供に努めるとともに、経営の健全化を進めてまいります。

また、秩父の産科医療では、産婦人科を1医院で支えていただいている状況がございます。しばらくは、他院からの派遣をお願いし、引き続き、産婦人科の医師を確保してまいります。

新型コロナウイルス感染症対策については、秩父郡市医師会にご協力いただくとともに、国や埼玉県との強力なパイプを最大限に生かし、ワクチン接種を希望される方が確実に接種できるよう、しっかりと対応してまいります。

3つ目は、公共施設の有効利用でございます

私は、現在、行政が持っている資産の有効活用策について考えておりました。例えば、旧秩父東高校については、先月、庁内にプロジェクトチームを発足させ、現状の把握、課題の分析を進めているところでございます。

今後、空き校舎を活用して、各種団体やNPO、スポーツ団体等の事務所として、また、起業家支援のための会社や事務所、作業所としてのオープンスペースなど、自主的な市民の活動拠点として有効活用できないか模索してまいります。

また、将来に向けて、市債残高を増やさないように、そのほかの老朽化

した施設についても、建替えを検討する前に、まずは、リフォームで対応できないかどうかの見直しを実施してまいります。

4つ目は、子育て支援・高齢者支援でございます。

少子高齢化が急速に進む中、高齢者が健康で生き生きと暮らせる環境の支援や次世代を担う子どもを産み育てやすい社会を構築するため、経済的な負担の軽減を図ってまいります。

子育て支援では、母子保健事業を中心とする「ネウボラ」の充実を図り、出産費用の全額公費負担や、紙おむつ・お尻拭き等の支給、ランドセルの無料配布、給食費の完全無料化など、実施できるよう検討してまいります。

また、人を愛し、郷土を愛し、国を愛する当たり前の精神を着実に伝え、時代に即した新たな風にも柔軟に対応しながら心の教育を実践し、世界で活躍できる「ちちぶっこ」を育てるなど、誰もが夢や希望を感じることが出来る取組を進めてまいります。

また、高齢者支援では、高齢者世帯が増加する中、特に中山間地域では、買い物や通院などの移動手段に公共交通網が欠かせません。バスの乗車券の補助を継続するとともに、既存の仕組みを活用するなど、多角的視点からの検討を行い、高齢者が健康で生き生きと暮らせる環境づくりに取り組んでまいります。

5つ目は、企業誘致と経済の活性化でございます。

企業の誘致を促進し、産業振興や観光振興などを加速させるため、ワーケーションなどの新たな取組を導入することにより、人の流れ、物の流れを創っていきたいと考えております。

企業誘致では、埼玉県を担当部局との全面タイアップのもと、研究機関などの進出も視野に入れて、積極的に取り組んでまいります。また、企業誘致と合わせて、ちちぶ雇用活性化協議会や秩父地域雇用対策協議会との連携により、雇用の創出を図ってまいります。

中心市街地の活性化では、秩父神社の大鳥居から始まる番場の門前町や、宮側、本町、中町、上町、東町を秩父の風情を感じながら楽しく周遊できるよう、事業者の皆様と協力してまいります。

また、地域の歴史や文化を活用した観光振興や、地域の強みを掘り起こして新たな価値を見出すなど、その地域の良さを社会全体の活性化に繋げていきます。

例えば、秩父は、文化遺産である秩父夜祭により多大な恩恵を受けておりますが、祭りを核とした観光施策は、まだまだ可能性を秘めていると思います。笠鉾・屋台町会と連携を図り、様々な手法を模索してまいります。

以上、市長就任に当たりまして、私の市政に対する所信の一端を申し上げましたが、市が抱える諸問題を迅速かつ的確に対応しながら、市民の生

活を楽にできるような、そして、子どもたちが希望を持てるような魅力的な秩父市を創造するため、強い決意を持って取り組んでまいりますので、市民の皆様、並びに議員各位におかれましては、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。